

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録
2012年12月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL (03)5379-5521/FAX (03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

第50回上期ギャラクシー賞 各部門の選考会はじまる

10月理事会報告

2012年10月19日、10月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田委員長

・12月号最終の校正作業中。表紙は岡田将生さん、ザ・パライソンが和田かおりさん。特集は「世界のテレビ賞に挑め!」。

・2013年1月号の特集は「60年記念企画 テレビを語る書物たち」第50回上期ギャラクシー賞発表。表紙は松平健さん。ザ・パライソンは汐見稔幸さんの予定。

・「GALAC」の記事を配信しているgooがスマートフォンへの最適化を求めてきたが、今、早急に対応はできないので、今後の課題とした。

◇選奨事業委員会 藤久委員長
〈テレビ委員会〉 中町副委員長

・9月度の月評会を10月1日に開催した。第50回ギャラクシー賞上期の参加本数は、136本で、前年よりも7本増えた。10月25日に選考会を開催する予定。10月度の月評会は10月30日に開催する予定。

〈ラジオ委員会〉 桜井委員長
・10月17日に10月度の合評会を開催した。山口放送の「DO! AS A」を取り上げた。

・第50回上期の参加本数は30本で、前年よりも9本減となった。

9本減になったことに対して桜井委員長は生ワイド部門への参加が減ってきているので、見直しが必要かもしれないと分析。

ラジオ単営局は経営が厳しいので何らかの対応策が必要。ワイド部門は参加料を下げるべきなどの意見が出た。

・選考は10月23日にドラマ部門と報道・ドキュメンタリー部門を、29日にワイド部門と音楽&エンタテインメント部門を行う予定。

〈CM委員会〉 五井委員長

・CM部門は、10月22日に定例会と上期選考会を開催する予定。

・上期の参加本数は135本で、昨年より15本増となった。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・11月3日に上期選考会を開催する予定。また、11月10日に「報道活動を見て、制作者と語る会」を日大で開催する。

・上期の参加本数は8本で、昨年より2本増となったが、下期に期待したい。

◇企画事業委員会 碓井委員長

・16日に委員会を開催して、全体の作業の確認や方向性を確認した。来年春のシンポジウムに関して全体の構造を見直していこうということで、開催の規模、会場、受講料について改めて検討。年内にはプログラムを確定する予定。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・データベース事業の提携先のプ

ラットイーズにスマートフォンからホームページが見られるようにすること、スマートフォンからマイベストTVへの投票ができるように見積りを依頼している、その結果で最適化を検討したい。

2 50周年委員会報告

① 50周年式典、50周年イベント

藤田委員長

・50周年の記念賞は正会員にも推薦をしていただく。推薦用紙を「GALLA C」12月号に同封する予定で作成している。11月末締め切り。

また、式典とは別に50年を振り返ったイベントとしてふさわしい提案の件は、会場の選定を進めているので、近日中には会場と期間などを報告する予定。50周年記念賞と50周年記念イベントについては選奨事業委員会の各部門からも贈賞の対象のご提案とイベントの企画を11月中にいただきたい。もうひとつの50周年の記念出版については解題コラムを集めているところで、掲載許諾をとる作業中。3月末には発刊予定。

これに対して「記念賞の対象は局でもいいんですか」との問い合わせが

あり、藤田委員長は「局や番組はあまり想定はしていなかったんですが……」との答えだったが、「番組はありではないですか」「番組があつてそれにも関係している、番組もありではないでしょうか」「個人については50年にこだわらずに、40代や50代の人にも差し上げることがあるのかな」「終わった番組でも歴史を変えたということがあれば、番組はありということにしましょうか」「例えば大河ドラマでもいいのでは」「などの意見が出され、藤田委員長からはあまり縛ってもいけないので、番組もありということにするという答えがあった。

またCMについては「企業はありますか」との問いには、「結局、メディアに取り上げられるのは個人賞なので、何に重きを置くかですね」「入り口は広く取っておくほうがいいのでは」「などの意見が出された。

藤田委員長からは、番組等と企業を対象にするのかはあまり枠組みを決め付けないほうがいいと思う。正会員発送の文書は工夫しますとの答えがあった。

② トロフィー、賞状 橋本専務理事

新しいトロフィーの試作品と新しい賞状のデザインを提出した。また、賞状の統一感を出すために奨励賞の賞状も新しくする予定で、デザインを依頼している。志賀信夫賞のトロフィーについては今まで通りのものとする。

③ データベース 川喜田理事

プラットイーズと進めているギャラクシー賞データベース検索システムのイメージを提出。

費用については導入初期費用とランニング費用については承認済みだが、過去受賞作品の番宣写真WEB掲載に関する許諾代行などの導入初期メタデータ整備費と月一回のデータ更新費用が派生することがわかった。

これについては、当初予定していた初期費用よりはるかに安く納まっていることと、プラットイーズに維持会員になってもらうこともあるだろう。また、データベースはホームページと密接に関係しているので、滝野理事と協力して進めていく。

これに対して田中理事よりシステム開発の著作権はプラットイーズかとの問いがあり、川喜田理事より月額利用料はサーバーのレンタル利用使

用料であるとの答えがあり、滝野理事よりこれを作成するときにはプラットフォームが持っているデータベースを使用することでこの料金になっている。もちろんデータベースは放想用のものを作ってもらうので著作権は放懇にあるが、人の検索などはプラットフォームのデータベースにアクセスすることになるので、これから契約するときに詳しく詰めたことの説明あり。

3. その他

①日韓中TV制作者フォーラム

飯田理事

詳細は「GALAC」と同封する「ほうこん」に掲載予定です。

今回参加した藤久理事と中町理事からも報告があった。

②入会・退会

〈入会〉

- ・正会員 内田雄一さん
- ・維持会員 ファミリー劇場

〈退会〉 正会員 赤坂光男さん

③ATP「東京TVフォーラム2012」後援名義の件

・中島事務局長より、内容説明及び今までの経過説明。↓了承。

④その他

中島事務局長

・「GALAC」11月号の到着が一部で通常より遅くなった事態があり調査した。その結果、今回は三連休がはさまったためのようなだが確かな原因は不明だった。発送に使用しているゆうメールは、料金は安いが配送は通常郵便が優先されるという特長がある。今回の事態を受けて、いくつかの別の発送方法について見積もりを出してもらったが、ヤマトのメール便と第三種便を調べたが、比較したところ費用はゆうメールが一番安かった。

当面は従来通りゆうメールで発送することを了承。

・小田桐常務理事よりテーマを決めてフリートークの時間を作ってほしいとの提案があった。

提案に対し、各理事よりいくつか意見、提案がされた。結論は出なかったが、中身のある理事会とするよう議事進行含めて努力することとした。

次回以降の理事会

11月19日（月）

12月14日（金）

〔出席〕音好宏、橋本隆、上滝徹也、

小田桐誠、藤田真文、飯田みか、藤

久ミネ、碓井広義、桜井聖子、五井千鶴子、鈴木嘉一、滝野俊一、石井彰、川喜田尚、小林毅、嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗田政憲、中島好登

会議記録

〔10月〕

16日

出版編集委員会
企画事業委員会

17日

（選奨）ラジオ定例部会
理事会

19日

（選奨）CM定例部会
CM選考会

22日

（選奨）ラジオ「ドラマ・ドキュメンタリー」選考会

23日

（選奨）テレビ選考会

25日

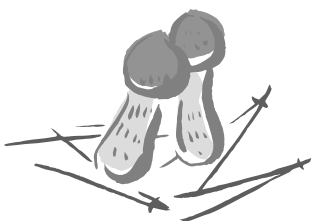
（選奨）ラジオ・音楽・エンタテインメント選考会

29日

（選奨）テレビ月評会

30日

（選奨）テレビ月評会



訃報

放送批評懇談会前理事長（現名誉会員）として、放送界の発展に寄与された放送評論家の志賀信夫さんが、2012年10月29日、肺炎のため東京都内の病院で逝去されました。83歳でした。

謹んで哀悼の意を表し、お知らせいたします。

葬儀は故人の遺志により、近親者のみで執り行いました。後日、偲ぶ会を開催する予定です。



しが・のぶお 放送評論家。1929(昭和4)年10月23日福島県生まれ。53(昭和28)年早稲田大学大学院文学研究科修了。57(昭和32)年早稲田大学第一・第二文学部講師。60(昭和35)年放送評論家として独立。63(昭和38)年放送批評懇談会設立と同時に理事。79(昭和54)年共立女子大学文芸学部講師。81(昭和56)年メディアワークスショップ代表理事。85(昭和60)年ビデオ映像文化振興財団理事。90(平成2)年多摩大学経営情報学部講師。NAB(全米放送事業者協会)東京セッション実行委員会会長、文化庁芸術祭審査委員、NHK演出審議委員などを務める。放送批評懇談会理事長は、78(昭和53)年5月から2008(平成20)年6月まで務めた。

テレビが誕生してから、常にテレビを見続け、評論家として独自のスタイルを貫く。2003年には、テレビ評論の分野で初めて芸術選奨を受賞。著書に「デジタル時代のバイオニア」(源流社)、「BS/CS衛星放送新時代」(電波新聞社)、「昭和テレビ放送史」(早川書房)、「映像の先駆者125人の肖像」(NHK出版)など多数。自選の優れた番組について評論を記録し、関係者の証言を集めるなどした「年間テレビベスト作品」を30年にわたって出版した。

公開シンポジウム 第5回「ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会」

- 日 時 2012年11月10日(土) 午後1時～5時(開場午後0時半)
- 場 所 日本大学藝術学部 江古田キャンパス 東棟1階 E102教室
- 主 催 NPO法人放送批評懇談会ギャラクシー賞報道活動部門委員会
- 後 援 日本大学藝術学部放送学科 ■ 入場無料 (定員100人) 事前の申し込みは必要ありません

【上映作品と参加放送局】

- 〈大 賞〉 絆いわて「ふるさととは負けない!」キャンペーン(IBC岩手放送)
 - 〈優秀賞〉 市営散弾銃射撃場鉛汚染問題における一連の報道(伊万里ケーブルテレビジョン)
 - 〈優秀賞〉 オムニバス・ドキュメンタリー「3・11大震災 記者たちの眼差し」Ⅰ～Ⅳ(TBSテレビ)
 - 〈選 奨〉 NNNドキュメント'11～'12「3・11大震災シリーズ」における計31本の番組制作と一連の報道活動(日本テレビ)
- 総合司会は報道活動部門委員長鈴木嘉一、シンポジウムの司会は前報道活動部門委員長の確井広義が担当します。

【会場へのアクセス】

最寄り駅 西武池袋線 江古田駅(池袋駅から各駅停車で三つ目、6分) 北口から徒歩3分

【問い合わせ】 放送批評懇談会 03-5379-5521(平日午前10時～午後1時、午後2時～6時)